

## 「寿都町の将来に向けた勉強会」（第11回勉強会）開催概要

1. 日 時 2022年9月15日（木）18:30～20:55
2. 場 所 寿都町総合文化センターウィズコム2F会議室
3. 出席者 【勉強会メンバー】：8名  
【ファシリテーター】：北海道大学 竹田先生
4. タイムライン  
＜勉強会＞  
18:30～18:35 8/27実施イベント「体験しよう！地層処分」の情報提供（別紙）  
18:35～18:37 本日のアジェンダ説明  
18:37～19:43 「寿都をどんなまちにしていきたいか」をテーマとした対話  
19:43～20:47 対話によって生まれた今の思いの発表  
20:47～20:55 次回以降のすすめ方ほか

### 5. 主な内容

#### （1）8/27実施イベント「体験しよう！地層処分」の情報提供

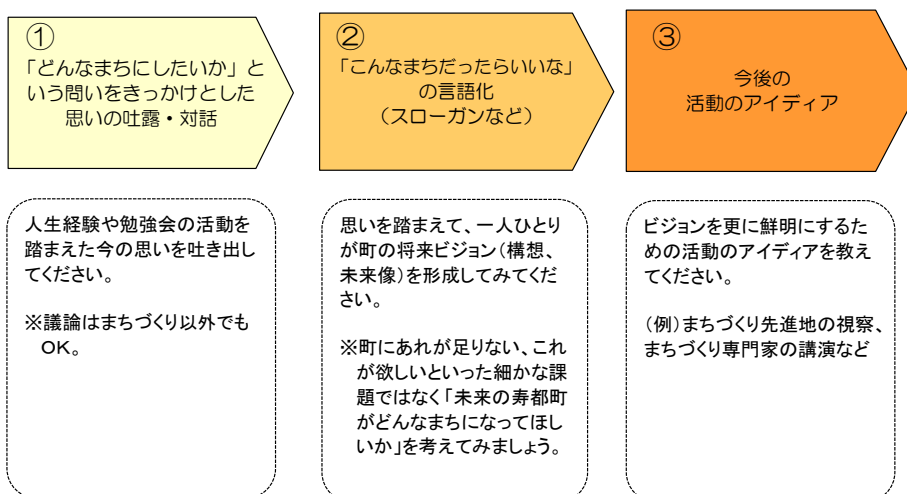
- ・別紙により情報提供

#### （2）本日のアジェンダ説明

- ・前回勉強会（8/4）でのメンバーからの要望を受けて「寿都をどんなまちにしていきたいか」をテーマに、町の将来ビジョンを話し合っていた。
- ・進行役は、寿都町「対話の場」でファシリテーターを務めていただいている竹田先生にお願いしたい。  
⇒メンバーの拍手により承認。

#### （3）「寿都をどんなまちにしていきたいか」をテーマとした対話

- ・以下により、対話のすすめ方イメージを説明。



- ・出席者8名を4名ずつ2グループに分けて対話いただく。
- ・本日は②あたりまでできれば良いかな、と思っている。できれば本日の会の最後に一人ひとりが「こんなまちだったらいいな」という思いを発表いただきたい。ただし到達点はあまり気にしなくてよいので、思っていることを吐き出していただきたい。

#### (4) 対話によって生まれた今の思いの発表

※対話は上記「すすめ方イメージ」①の途中であったが、一旦、今の思いを発表いただいた。

- ・町は経済が動かないとダメ。過去、小規模な企業誘致があった。やはり雇用があればそこに家族ができて子供が生まれ孫が生まれ…となって活気が生まれる。地層処分事業は大きなチャンスだと思っている。「経済が動く町」となってほしい。
- ・一次産業が衰退している。地層処分事業は「活気のある町」とするためにいい機会だと思う。せめて概要調査までは進んでほしい。
- ・仕事があれば収入が生まれ、生活が安定する。自分たちの生活基盤をしっかりとさせて、そのうえで初めてどんな町にしたいか、という思いが生まれるのでは。地層処分事業があれば今までと異なった仕事が生まれるだろうし、「余裕のある町」となってくれるとよい。
- ・今は活気が徐々に失われ、町というより村に近くなりつつある。衰退した町にはしたくない。仕事があって、しっかり生活ができれば不満が少なくなり、人との良好なつながりも生まれるのではないかと。理想は「不満のない町」である。
- ・本来まちづくりは議会や町に押し付けられるものではないと思う。しかし、この地層処分事業の問題をきっかけに町民の間で、「町をどうしたらよいか」という議論が生まれた。私は、町民として「寿都をどんな町にしたらよいか」という思いと、「NUMOがいるうえでどんな町にしたいか」という思いが2つあるのだが、今日は将来ビジョンまでまとめきれなかった。このような議論は若年層が中心となるべきで、「対話の場」の議論はどこかズレているのではないかと思う。
- ・まちづくりよりも人口を増やすことが重要では。また、まちづくりより「ひとづくり」が重要だと思う。地層処分事業への賛否を抜きにして、町民が一体となり仲良く暮らしていければよい。人のつながりを大切にしたい。本勉強会のメンバーは、地層処分事業に賛成・反対両方の人がいるが、せめてこの会だけでも仲良く地域のあり方を考えていくメンバーになりたい。
- ・文献調査がここで始まっている以上、NUMOがいる上でのまちづくり、NUMOがいない上でのまちづくり、この2つの選択肢が前提となるのではないかと思う。ただ、地層処分事業への賛否が割れていて対話がしづらい部分もある。腹を割って対話ができる状態になって、初めてまちづくりの議論ができるのではないかと。
- ・寿都町は、過去、医療・福祉には成果があったと思うが、産業振興には課題が残っていると思う。軸となるような産業の芽は生まれておらず、あまりに町長一人に負担をかけすぎてきたのではないかと。町長一人に頼るのではなく、町民の意見の掘り起こしが必要だと思う。地層処分事業に反対している人にも将来のビジョンを持っている人はいるが、一方で地層処分事業と相入れない気持ちも持っている。一人ひとりが考えをオープンにできて、町に支援してもらえ「オープンで納得できる町」「一人ひとり、一社一社がチカラを発揮できる町」となると良い。

個人的なアイデアとして湯別の湯を活用したトラフグの養殖事業ができないかと思っている。

- ・まちづくりに関する議論をするこのような会は、他の自治体でも活動していると聞いている。そのような会では、広く意見の違いを許容すべきだと思うが、一方で、その許容限度を超えた事象が発生した時にどうするか、ということが問題で、まさにそれが寿都町独特の問題だと思う。
- ・地層処分事業に対する意見の違いから「この勉強会に顔を出しづらい」というのは問題。そこはメンバー間で解消していく努力が必要だと思う。

#### (5) 次回以降のすすめ方ほか

##### ① 次回以降のすすめ方について

- ・「対話のすすめ方イメージ」①部分で時間切れとなったこと、また欠席者がいたこともあり、次回も本日の対話を継続することとなった。

##### ② 次回の日程について

- ・次回は10月13日（木）開催でメンバーの了承を得た。

以上

#### 【写真】意見交換の様子





**【ご参考】**  
**「体験しよう！地層処分」**  
**イベント報告**

■8月27日(土)10:00~15:00、  
ウイズコム駐車場において  
地層処分展示車「ジオ・ラボ号」を使用した  
「体験しよう！地層処分」と題したイベントを  
行いました。

## ● ジオ・ラボ号



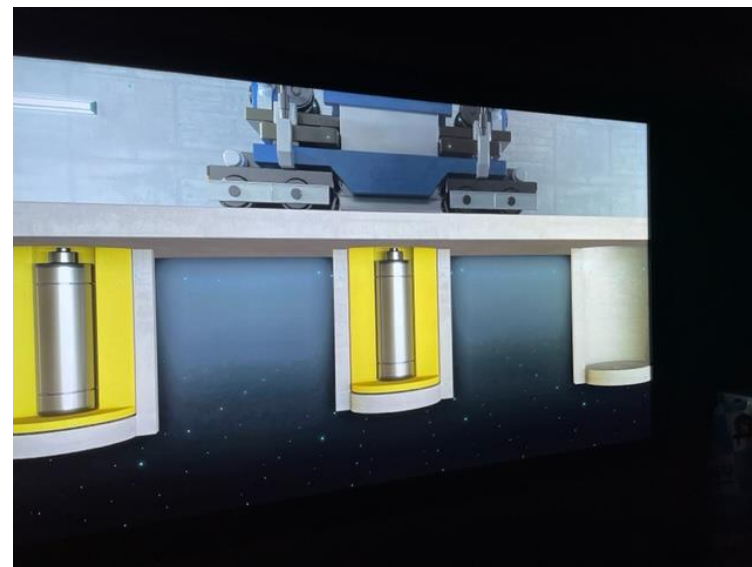
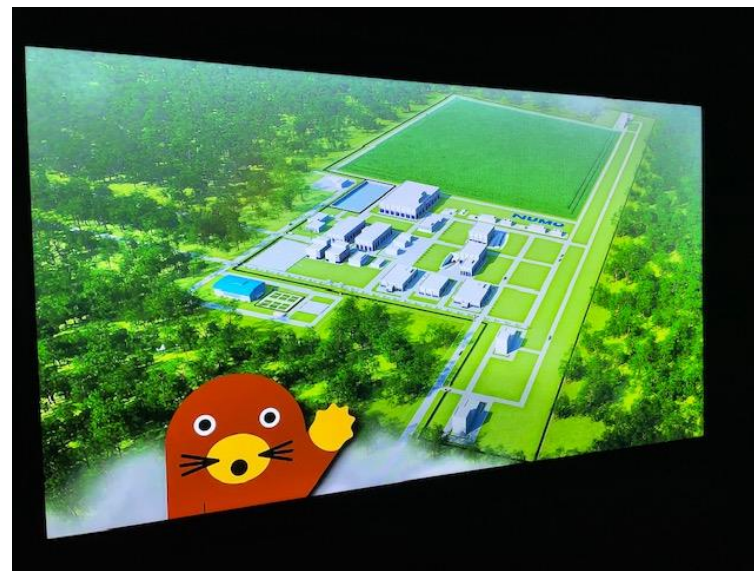
## ● イベント全景



## ● ガラス固化体実物大模型

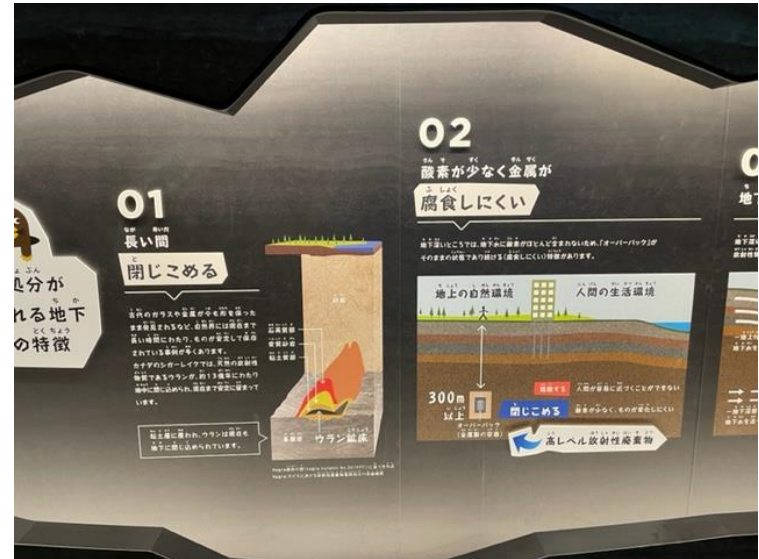


# ●「ジオ・ラボ号」内で上映の処分場イメージ映像





# ●「ジオ・ラボ号」内の展示物



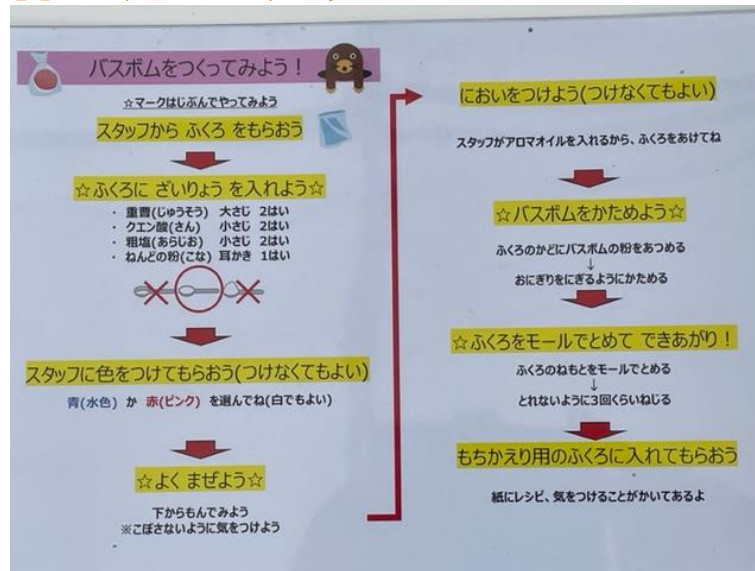
## ●紙アプリ



## ●オーバパックをイメージした積木とベントナイト実験



# ●バスボム作り <作り方の説明>



## <材料>



## <完成したバスボム>

